

はじめに

一貫連携教育研究所・心の教育研究所 所長
三川 俊樹

一貫連携教育研究所は、「独立自強・社会有為」の人材育成という追手門学院の教育理念に基づき、「志の教育」「自校教育」「心の教育」「キャリア教育」「国際教育」及び「一貫連携教育」を機軸として学院の教育目標の具体化を図るとともに、総合学院としての一貫教育及び学院内外の連携教育を企画・推進し、学院における教育・研究の一層の充実・発展に寄与することを目的に設置された機関です。2014年4月に追手門学院教育研究所が発展的に一貫連携教育研究所に踏襲され、2016年4月には追手門学院大学附置の研究所となりましたが、2019年4月から追手門学院初等中等部の所管となって今日に至っています。

また、2014年4月に追手門学院大学附置となった心の教育研究所は、2020年4月に一貫連携教育研究所に統合されることになりました。

一貫連携教育研究所は、2015年度から「心の教育」「キャリア教育」「国際教育」を重要なテーマとして設定し、こども園から大学までの計画的・継続的な教育の系統性について検討するとともに、教育内容の策定および実践に取り組んできました。とくに「心の教育」「キャリア教育」「国際教育」を学院全体の教育目標として具体化を図り、乳児・幼児・児童・生徒・学生・大学院生が共に学び・共に育つ総合学園として、学ぶこと・育つことが生きること・働くことにつながり、一人ひとりが他者とかがわり、社会につながり、その関係性が世界へと広がる「かがわり・つながり・ひろがり」を進める教育を大切にしています。

今後も、心の成長と発達を促す「心の教育」、生きる力を育む「キャリア教育」、世界で活躍する人材を育てる「国際教育」を中心に、追手門学院の「これまで」のすぐれた教育実践をあらためて見直すとともに、日々の教育活動を見つめながら、今後の教育の方向性を確実に見据えていく必要があると思われます。

さて、2019年度に刊行する一貫連携教育研究所紀要第6号には、追手門学院の一貫連携教育の特徴を明確に表した論文や報告書が掲載されることになりました。

まず、東田充司所員（基盤教育機構教授）による「発祥校訪問で学ぶ大学自校教育－追手門 UI 論の場合」が掲載され、発祥校である追手門学院小学校と隣接する大阪城を学びの場として行われる講話と巡検による自校教育の実践が紹介されています。

また、経営学部の宮崎崇将准教授、村上喜郁准教授および追手門学院中・高等学校の木村耕太郎

教諭の共著による「2019年度追手門学院連携 SDGs プログラム“OTMs”報告書」には、北摂総合研究所との連携により、大学生が大学で学んだ専門的な知識を SDGs の観点から活かして中学生に授業を行った教育実践の成果が報告されており、SDGs を軸とした「郷中教育」を目指しつつ、追手門学院の長期構想 2040 の中で SDGs を重要な要素として位置づけ、学院全体を挙げて取り組むという目標に沿った活動が紹介されています。

さらに、心の教育研究所所長を兼務する三川俊樹所長（心理学部教授）が、心の教育研究所の研究紀要としてまとめた「これからの『心の教育』を考える－心の教育研究所を一貫連携教育研究所に統合するにあたって」は、「心の教育」の視点やその在り方について取り組むべき方向性が提言されてから 20 年以上が経過したことを受けて、これまでの学校教育や社会教育における「心の教育」への取組やその展開について振り返り、これからの「心の教育」のあり方について検討したものです。

追手門学院がこども園から大学院までを有する総合学園として、子どもや若者の心の成長と発達を促し、これからの社会をたくましく生きる知恵と力を育む教育を推進するにあたり、これまでに培ってきた教育実践や研究が新たな時代の教育のあり方を検討していくための貴重な資料となることを願っています。